

令和6年度 地域公共交通確保維持改善に関する自己評価
(及び地域公共交通計画の評価結果) 概要 (全体)

豊川市交通協議会 (豊川市)

平成21年2月13日設置

令和3年3月30日 豊川市地域公共交通計画策定
(計画期間：令和3年4月～令和8年3月)

評価対象の地域公共交通確保維持事業
・地域内フィーダー系統確保維持国庫補助金

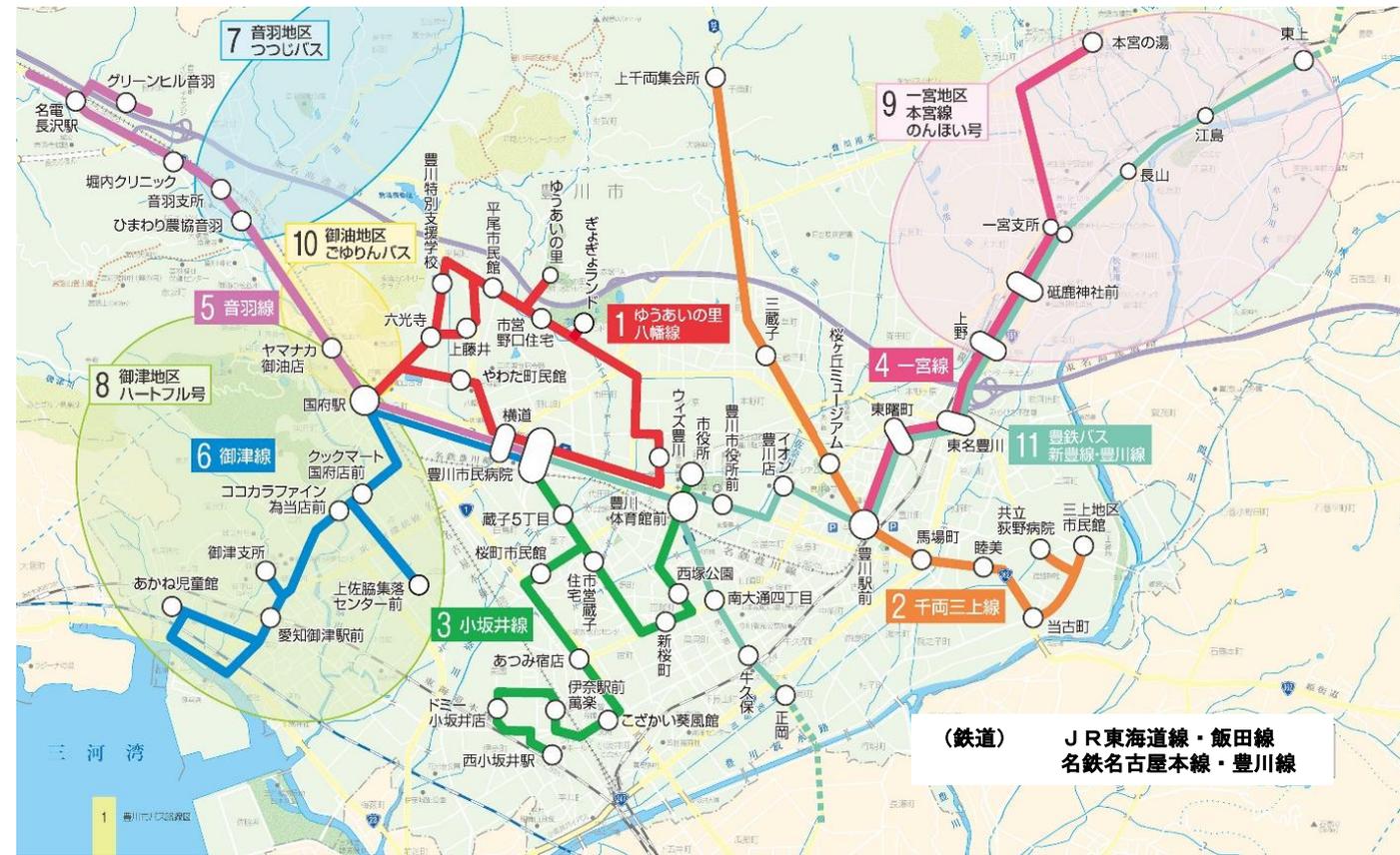
(1) 豊川市の概要

面積: 約160km²
 人口: 約18万人
 鉄道: 4路線19駅
 民間バス: 2路線5系統
 コミュニティバス: 10路線
 タクシー: 3社76両
 (福祉輸送限定除く)

(2) 基本方針

- ① 公共交通機関の役割分担による効率的かつ持続可能な公共交通網の構築
- ② わかりやすく多様な移動ニーズに対応した路線を移動量に応じたサービス水準で運行
- ③ 既存の形態・主体に捉われない移動手段の構築
- ④ 広域連携した利用促進の実施及びICT技術を活用した情報発信の強化

(豊川市) 鉄道・バス路線の概要図



(3) 路線の役割

- ・ 地域間幹線系統補助対象路線
 市内外を結ぶ広域輸送を担う路線 (1 1 豊鉄バス新豊線・豊川線)
- ・ フィーダー系統補助対象路線
 鉄道、地域間幹線系統補助対象路線への接続や市内の拠点間輸送を担う路線 (1 ゆうあいの里八幡線・2 千両三上線・3 小坂井線・5 音羽線・6 御津線・9 本宮線のんほい号)

2. 【Do】 目標達成に向けた公共交通に関する主な具体的取組

(1) 広域連携による利用促進策の実施

実施日・実施期間	事業内容	実績
令和5～6年度	豊鉄バス交通系ICカード導入費補助	豊川市 令和5年度6,539千円 令和6年度7,177千円
令和6年 7月20日 ～9月 1日	夏休み小学生50円バス (東三河のバス運賃の一律割引)	豊川市コミュニティバス 50円バス利用者184人 (前年比2.6%減)
令和6年 7月20日 ～11月30日	ポスター&川柳コンテスト募集企画	応募者595人
	公共交通オリジナルツアー募集企画	応募者16人
令和6年 8月 3日	夏休み路線バス探検キャラバン (バスとの綱引き体験、整備工場見学等)	参加者67人 (前年比増減なし)



公共交通利用促進
ポスター&川柳コンテスト等チラシ



夏休み路線バス探検キャラバン
～バスとの綱引き体験の様子～



夏休み路線バス探検キャラバン
～整備工場見学の様子～

2. 【Do】 目標達成に向けた公共交通に関する主な具体的取組

(2) 市単独による利用促進策の実施

実施日・実施期間	事業内容	実績
令和6年1月16日	コミュニティバス乗り方教室(一宮)	24名参加
令和6年1月22日	バス停の待合環境改善	豊川駅前バス停のベンチ1基増
令和6年5月25日 ～5月26日	豊川市民まつり「おいでん祭」 (バス展示 等)	ブース来場者550名超
令和6年7月10日	コミュニティバス乗り方教室(大木)	10名参加
令和6年8月 1日～	のりものカード (市内タクシーの利用促進)	市内3社 先着2,000枚無料配布
令和6年8月 4日	公共交通フェスタ (事業者PR、鉄道グッズ販売 等)	ブース来場者800名超



コミュニティバス乗り方教室
～乗り方説明の様子～



のりものカード
～市内タクシー事業者3社の紹介～



公共交通フェスタ
～ペーパークラフトコーナーの様子～

(3) アンケート調査の実施

実施日・実施期間	事業内容	実績
令和5年10月中旬	公共交通に関するアンケート調査	市民4,400世帯対象 回収率31.5%
令和5年10月24日(火) ～10月28日(土)	バス利用者アンケート調査	コミュニティバス5日間 豊鉄バス2日間 合計1,028枚配布 合計回収率38.7%

○今後の展開

・豊鉄バス交通系ICカード導入費補助

沿線市町の連携支援を継続し、令和7年3月導入予定。これに合わせて豊鉄タクシー株式会社が運行するコミュニティバスにはPayPayを導入し、市内を運行する全てのバスの電子決済を可能にする。令和7年春にはJR飯田線の豊川駅から本長篠駅区間で交通系ICカードが導入されるため、市内の鉄道・バスの電子決済一斉対応化を周知し、利用促進を図っていく。

・夏休み小学生50円バス等の広域利用促進

夏休み小学生50円バスの利用者は微減。東三河で連携し、ポスター募集等の企画と並行して継続実施していく。

・各種アンケート調査

豊川市公共交通計画の評価し、次期計画である豊川市総合交通戦略策定の基礎資料とする。また、地域特性に合った移動手段の調査・検討を進め、バスの効率化と新規移動手段の導入を図り、過度に自家用車に依存しなくてもおでかけできるまちづくりを進めていく。

3. 【Check】 計画の目標の達成状況とその理由についての考察

(1) 数値目標、実績及び達成状況

(目標の設定方法)

令和7年度(計画最終年度)の利用者数をコロナ禍前(令和元年度)実績に戻すように設定

(目標・実績期間)

コミュニティバス及び豊鉄バス利用者数:令和5年10月～令和6年9月(左記以外:令和5年4月～令和6年3月)

★補助対象

			令和元年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
			実績	(目標) 実績 達成状況	(目標) 実績 達成状況	(目標) 実績 達成状況	(目標) 実績 達成状況	(目標)
数値目標	公共交通機関利用者数	合計 (鉄道以外)	980,771人	(-) — —	(-) — —	(908,500人) 823,981人 未達	(-) — —	(980,000人)
		★コミュニティバス	101,604人	(87,000人) 74,522人 未達	(90,000人) 70,169人 未達	(93,500人) 74,433人 未達	(96,500人) 80,972人 未達	(100,000人)
		★豊鉄バス 新豊線・豊川線	398,056人	(-) — —	(-) — —	(370,000人) 412,967人 達成	(-) — —	(400,000人)
		豊川市内 タクシー	481,111人	(-) — —	(-) — —	(445,000人) 336,581人 未達	(-) — —	(480,000人)
	主要な鉄道駅の 1日あたりの乗車人数		20,375人	(-) — —	(-) — —	(20,000人) 18,015人 未達	(-) — —	(20,000人)
	市民移動手段の 公共交通分担率		8.1%	(-) — —	(-) — —	(8.4%) 8.0% 未達	(-) — —	(-)
	バス停・駅勢圏等カバー率		65.4%	(-) — —	(-) — —	(65.0%) 64.6% 未達	(-) — —	(70.0%)

3. 【Check】 計画の目標の達成状況とその理由についての考察

(1) 数値目標、実績及び達成状況(続き)

★補助対象

路線名	利用者数			収支率			行政負担額		
	目標(人)	実績(人)	達成状況	目標(%)	実績(%)	達成状況	目標(千円)	実績(千円)	達成状況
★ゆうあいの里八幡線	10,500	11,192	達成	5.9	7.9	達成	18,797	21,758	未達
★千両三上線	12,500	11,466	未達	14.6	14.4	未達	12,972	12,266	達成
★小坂井線	11,500	7,669	未達	12.5	9.1	未達	12,156	11,873	達成
一宮線	15,000	15,013	達成	12.0	16.1	達成	9,992	9,542	達成
★音羽線	12,000	9,629	未達	10.9	11.5	達成	13,056	12,328	達成
★御津線	8,500	5,958	未達	7.6	7.4	未達	14,490	12,263	達成
音羽地区地域路線	10,000	9,094	未達	10.7	11.4	達成	12,767	11,891	達成
御津地区地域路線	3,000	3,080	達成	5.2	4.8	未達	9,943	9,891	達成
★一宮地区地域路線	5,500	3,492	未達	9.7	7.1	未達	9,105	8,744	達成
御油地区地域路線	8,000	4,379	未達	9.9	6.5	未達	11,121	10,830	達成
合計	96,500	80,972	未達	9.8	9.7	未達	124,400	121,385	達成

(2) 目標の達成状況についての考察

- ・利用者数合計では、利用者回復の遅れ(新型コロナウイルス感染症)により目標未達。路線別では、ゆうあいの里八幡線は令和3年10月の市内バス路線の再編により、旧・ゆうあいの里小坂井の姫街道以北のルート継承が寄与し、目標達成。一宮線は温浴施設の最寄りバス停の利用者増加が寄与し、目標達成。御津地区地域路線は令和5年3月の路線及びダイヤの見直しが寄与し、目標達成。
- ・収支率合計では、利用者回復の遅れにより目標未達。ゆうあいの里八幡線及び一宮線は利用者数の考察と同じ。音羽線及び音羽地区地域路線は走行距離短縮化等が寄与し、目標達成。
- ・行政負担額の目標は、路線再編に伴い走行距離を短縮し、運行経費を削減できたため達成。ゆうあいの里八幡線は走行距離が延長したため未達。

【課題】

- ・広域連携による利用促進策や市単独による利用促進策を行っているものの、新型コロナウイルスの影響により、コミュニティバス及びタクシー利用者の回復が遅れている。また、過半数のコミュニティバスで収支率の目標が未達となっている。



【対応方針】

- ・適宜内容を見直しながら、広域連携による利用促進や市単独による利用促進を継続する。
- ・市内の鉄道及びバスの一斉電子決済化を周知し、公共交通機関の乗り換え利用促進を図る。
- ・令和5年度に実施したアンケート調査結果に基づき、地域特性に合った移動手段を検討する。
- ・コミュニティバスの運行の効率化を図るほか、新規移動手段を導入し、過度に自家用車に依存しなくてもおでかけできるまちづくりを目指す。

年度	二次評価結果	事業評価結果の反映状況 (具体的対応内容)	今後の対応方針
前回	<p>広域移動とバスの利用促進に向け、東三河地域の自治体と事業者その他様々な主体と連携した取組が今後も継続されることを期待します。</p>	<p>東三河地域の広域移動を担う豊鉄バスに対して、国・県・沿線市町で連携して交通系ICカードの導入費を補助した。令和6年度も補助を継続予定。</p>	<p>令和7年3月の交通系ICカード導入に合わせて、沿線市等と連携して周知を行い、東三河地域における公共交通の利用促進を図っていく。</p>
	<p>令和5年10月実施のアンケート調査結果等を踏まえ、関係者を含む多様な主体と連携して利便性の向上や利用促進につながる施策の検討が進められると共に、この検討やこれまでの取組を反映して次期地域公共交通計画が策定されることを期待します。</p>	<p>次期計画の策定に向けて庁内に学識経験者や運行事業者を部会員とする作業部会を設置し、公共交通の現状及びアンケート調査結果に基づく地域別課題を整理し、情報共有を行った。</p>	<p>地域特性に合った移動手段を明らかにして次期計画に記載する。また、バスの運行を効率化するとともに新規移動手段を導入し、過度に自家用車に依存しなくてもおでかけできるまちづくりを進めていく。</p>

※前回：令和6年3月21日

年度	二次評価結果	事業評価結果の反映状況 (具体的対応内容)	今後の対応方針
前々回	地域間幹線系統の状況も意識しつつ、今後も東三河地域が一体となった取り組みの継続を期待します。	夏休み小学生50円バスの他、ポスター&川柳コンテストや公共交通オリジナルツアーの募集を行うなど、東三河地域が一体となった取り組みを継続実施した。	利用促進策の効果検証を進めて改善を図りながら取り組みを継続していく。また、運転手の確保策についても一体となって取り組んでいく。
	地域間幹線系統のうち、豊川線の一部系統については輸送量が補助要件をわずかに上回る数値となっており、沿線にて開業する大規模商業施設開業を好機と捉えた新豊線との一体的な利用促進を進められ、沿線市と連携して利用者数向上に向けた取り組みに努められるよう強く期待します。	輸送量が補助要件をわずかに上回る一部系統については、大規模商業施設の開業に合わせて系統の統合による増便を実施し、輸送量を増加させた。また、大規模商業施設において公共交通フェスタを開催し、運行事業者だけでなく沿線市のPR機会も設定した。	豊鉄バスの交通系ICカード導入に合わせて、沿線市町と豊鉄バスで連携して周知を行い、東三河地域における公共交通の利用促進を図っていく。また、ほぼ同時期にJR飯田線の交通系ICカード導入駅が増加されるため、鉄道・バスの一体的な周知も行っていく。

年度	二次評価結果	事業評価結果の反映状況 (具体的対応内容)	今後の対応方針
前々回	<p>10月の路線等再編後に課題となっている乗り換え利用者数の低迷については、引き続き1日乗車券の利用促進の取り組みを進められるとともに、待合所の改善等ハード面の取り組みを進めるだけでなく、乗り換え利用を妨げている要因を分析され、乗り換えを容易に感じられるような対策を検討され、乗り換え利用者数の増加によるバス利用者数増加へつなげられるよう期待します。</p>	<p>乗り換え利用を妨げている要因の1つは、バス利用者の5割強が70歳代以上の高齢者（R5バス利用者アンケート調査回答ベース）であるためである。高齢者を対象とした乗り方教室で1日フリー乗車券のPRを行ったほか、県・事業者・東三河地域で連携して東三河MaaSの実証実験を実施し、電子版の1日フリー乗車券の販売を開始するなど、販売間口を拡大した。</p>	<p>県・事業者・東三河地域で連携し、東三河MaaSを本格稼働して東三河地域における広域の乗り換え利便性を向上させていく。また、JR飯田線と豊鉄バスへの交通系ICカードの導入を好機と捉え、関係市等と連携し、ICカードによる鉄道とバスの乗り換えについてもPRしていく。</p>
	<p>評価されている取り組みについて、市民や地域に、その評価が高いことが伝わるよう広く周知することを期待します。</p>	<p>未対応</p>	<p>評価が高い取り組みを継続して実施する場合に、評価が高い取り組みであることを添えて周知を実施していく。</p>

※前々回：令和5年3月10日

12

6.計画・評価の推進体制

		第2次計画期間		第3次計画期間				第4次計画期間
		令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
実施事業のPDCAサイクル	Plan (計画)	事業計画	事業計画	事業計画	事業計画	事業計画	事業計画	事業計画
	Do (実施)		事業の実施	事業の実施	事業の実施	事業の実施	事業の実施	事業の実施
	Check (評価)		乗降調査 (OD調査)	乗降調査 (必要に応じ)	乗降調査 (OD調査)	乗降調査 (必要に応じ)	乗降調査 (OD調査)	乗降調査 (必要に応じ)
	Action (改善)		事業の評価 見直し・改善	事業の評価 見直し・改善	事業の評価 見直し・改善	事業の評価 見直し・改善	事業の評価 見直し・改善	事業の評価 見直し・改善
地域公共交通計画のPDCAサイクル	Plan (計画)	地域公共交通計画策定		必要に応じ改訂	必要に応じ改訂	必要に応じ改訂		次期地域公共交通計画策定
	Do (実施)		計画の実施	計画の実施	計画の実施 市民アンケート 利用者アンケート	計画の実施		計画の実施
	Check (評価)		目標達成状況の評価	目標達成状況の評価	目標達成状況の評価	基幹路線の評価 地域路線の評価 計画の評価		目標達成状況の評価
	Action (改善)		改善策検討	改善策検討	改善策検討		計画改訂の検討	

【交通協議会（第61回会議まで公共交通会議）の実施状況】

第61回会議	令和6年	3月28日	主な議題：豊川市地域公共交通会議の廃止協議
第1回会議	令和6年	6月25日	主な議題：アンケート調査の結果報告
第2回会議	令和6年	9月27日	主な議題：豊川市総合交通戦略策定の進捗状況報告
第3回会議	令和6年	12月18日	主な議題：豊川市総合交通戦略策定の進捗状況報告、千両三上線のルート等変更協議

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和6年12月18日

協議会名: 豊川市交通協議会

評価対象事業名: 陸上交通に係る地域公共交通確保維持事業(地域内フィーダー系統)

Table with 6 columns: ①補助対象事業者等, ②事業概要, ③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況, ④事業実施の適切性, ⑤目標・効果達成状況, ⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む). Rows include bus routes like '豊鉄バス ゆうあいの里八幡線', '豊鉄タクシー 千両三上線', '豊鉄タクシー 小坂井線', '豊鉄タクシー 音羽線', '豊鉄タクシー 御津線', and '豊鉄タクシー 一宮地区地域路線'.

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和6年12月18日

協議会名:	豊川市交通協議会
評価対象事業名:	陸上交通に係る地域公共交通確保維持事業(地域内フィーダー系統)
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>豊川市地域公共交通計画に則り、より良い交通ネットワークを構築するため、以下の将来像と基本方針に基づき事業を実施。</p> <p>[将来像] 様々な手段と主体が連携した持続的な交通ネットワークが充実し、住みよく、移動しやすいまち、豊川市</p> <p>[基本方針] 方針1:各公共交通が連携し、それぞれの役割に応じた、効率的かつ持続可能な公共交通網の構築 方針2:わかりやすく、多様な移動ニーズに対応した地域の実情に合った路線で、それぞれの移動量に応じたサービスで運行 方針3:様々な視点からの路線構築及び既存の形態・主体に捉われない移動手段の構築並びに市民行動の明確化 方針4:広域連携での利用促進の取組み及びICT技術を活用した情報発信</p>